

防災・減災（地震の場合）



凡 例

 学校・ 施設・ 公園は、一時避難所・収容避難所

 可搬式ポンプ収納庫  同報系無線

 広域避難場所(大火になったときに避難できる公園など)

 避難路(広域避難場所まで安全に避難できる道路)

 AED（自動体外式除細動器）

※AEDは西成労働福祉センター待合にもあります。

近い将来起こるかもしれない上町地震や南海地震に備えて「そのときどうするか？」をふだんから考えておくことが命を救ったり、被害を減らすことにつながります。

ふだんの心得

- ① 自分が寝泊まりしている建物や地域の状況を頭に入れておく。
（避難場所やそこへの逃げ道、途中の危ない場所など）
- ② 常に非常持ち出し品を用意しておく。
- ③ 室内を整理しておく（高所に落下物などないか）。
- ④ 何事も「近所の底力」。万一のときに助け合えるつながりづくりをふだんから。

揺れたとき

- ① 転倒物・落下物から離れ、座布団などで頭を保護。
- ② おちついたら、電熱器・ガス器具・ストーブなど、火の始末。
- ③ 揺れがおさまっても、あわてて外に飛び出さない。
- ④ 門や塀には近づかない。
- ⑤ 隣り近所に声をかけあう。特にお年寄りなど弱者に配慮を。

避難場所

前頁の防災マップを参照してください。避難場所（いまみや小中一貫校）には緊急物資も備蓄されていますが、あいりん地域は人口密集地なので物資不足や混乱も懸念されます。

阪神大震災の経験では、たよれるのは結局

「（自分の力による）自助7：（隣り近所による）共助2：（役所による）公助1」です。

ふだんから自分で備えることが第一。